

で貸し出しています。但し、個数は限定されています。

**研究棟 1階ユーザー控室のポットが汚れている。**

=> きれいなものに置き換えました。

**実験ホール入口の水飲み場の水が臭い。**

=> この機械は自動洗浄機能が付いています。臭いが感じられたらしばらく水を出してからご利用下さい。

**実験ホールに流れる不必要な放送を減らして欲しい。**

=> 減らしました。

**実験ホールの流しでフィルムの水洗いをしたい。**

=> フィルムの洗浄水は実験排水となります。廃液設備のあるところをお願いします。

**実験メンバー追加手続きなどに対する必要日数を公表して欲しい。**

=> PFの事務が届いた日から2日以内には処理していますが、余裕をもって送って下さい。なお、放射線登録がされているかどうかについては <[http://ccwww.kek.jp/kek/rad/rad\\_jimu](http://ccwww.kek.jp/kek/rad/rad_jimu)> で検索できますので、ご利用ください。

**書類不備でも、後日提出ということで実験ホールに入れるようにして欲しい。**

=> 放射線関係の書類は、余裕をもって提出して下さい。

**自転車の利用率を高めるために、長期に利用している人に注意して欲しい。**

=> 随時放送などで注意します。ユーザーの方もご協力をお願いします。

**事務室に書類を提出するためのポスト等を設置して欲しい。**

=> 設置します。

**宿舎の暖房が効かなかった。**

=> 当日、管理人に伝えて下さい。

**宿泊料を土日に払えるようにして欲しい。**

=> 法人化したので、検討できると思います。

**ストックルームや工作室での常備部品の種類を増やして欲しい。**

=> 具体的な品名をお知らせ下さい。

**生理試料準備室の維持・管理をきちんとして欲しい。純水の水質が悪かった。**

=> 定期的を確認していますが、その場で担当者にご連絡下さい。

**備え付け装置の故障で実験が出来なくなった場合には別の日に補償をして欲しい。**

=> 当該ビームラインに留保タイムがあれば対応できます。

**ビーム強度の変動が見られた。変動を減らして欲しい。**

=> ビーム変動に対しては適宜対応しています。気がついた時には運転当番にご連絡下さい。

**土日に食堂を営業して欲しい。**

=> PFとしては依頼していますが、採算の問題で難しいようです。

**ビームタイムの前後でもルータを貸し出して欲しい。**

=> 前後数日であれば柔軟に対応します。

**旅費の支払いを早くして欲しい。**

=> 旅費は変更などに対応出来るように出張期間が終了してから計算しています。その後の事務処理は早くするように努力します。



## PFシンポジウムに参加して

東京工業大学応セラ研 佐々木 聡

2004年3月24日、25日に、第21回PFシンポジウム(実行委員長:加藤龍一氏、副委員長:佐藤 衛氏)が、高エネ機構、3号館セミナーホールで開催された。今回は特に、若手の発表者や参加者が多く、PFシンポに新時代が到来する息吹を感じた。若手研究者は個々の分野の将来を担うと共に、ユーザーミーティングを特色づける顔である。放射光学会・合同シンポジウムとの棲み分けが続いている中にあるのは、実行委員会の努力があって初めてできたことであり、深く感謝したい。

思えば、昨年のPFシンポジウム報告の「PFシンポを振り返って」の中で、PFシンポに参加する若者の数が少ないことを嘆いた。懇親会では食べ物が多量に余ってしまうことも度々であった。施設運営や研究課題評価などの話題が中心になることが中堅や年老いた面々に偏る理由であるが、ユーザーコミュニティの将来のためには年齢のバランスが重要であると訴えたつもりである。そして、若手が発表でき、サイエンスの方向性を見出す機会となるようなPFシンポを作りたいと、厚かましくもお願いしてしまった。そのため、若手が参加できるような新企画をプログラム構成に取り入れようと、何度も実行委員会を開催することになったと、後からお聞きした。

PFシンポジウムの詳細については、実行委員長が本PFニュースに報告され、その後「PFシンポジウム報告」が印刷される予定である。そこで、ここではプログラムに沿った説明はすべて割愛し、感想をランダムに述べさせていただく。

PFリングの直線部増強作業が入るため、長期シャットダウンが予定されている等の施設報告が最初に行われた。新ビームラインの報告、PF-AR NW14の施設報告の後に、休憩を挟まず、いきなりNW14関連の招待講演(腰原伸也氏)が続いた。ビームラインとユーザー実験との繋がりがうまく企画されているなどの印象を持った。腰原氏は、時間分解構造観測と誘電体の逆襲について、熱弁された。「熱弁」としか表現できない力強さがあり、かつ、異分野の人にも理解できるよう丁寧な説明が必ずついてきた。昔からそのスタイルに変わらないのだが、「お役人を説得して大きなプロジェクトを走らせるには、この話術」と妙に納得してしまった。

今回のPFシンポを特徴づけているものは、3つの「招待講演」、2つの「新企画」、そして「ポスターセッション」であると、強く感じた。新企画では、若手ユーザーの起用が面白いほどの中し、そのサイエンスと噛み合った形で光



新企画「光源から利用研究まで・第一部」の「9C 時分割 XAFS」を講演中の鈴木あかね氏

源やビームラインの説明が PF スタッフからなされていた。質問に対する若手の受け答えもハツラツとしていて、ずっと昔に PF シンポがどこかに置き忘れてきたものに久々に出会った気がした。また、専門外の聴衆にも分かりやすくなるようにと苦労されたことが感じとれる発表で全体が構成されており、好感を持った。

ポスターセッションには沢山の人が訪れ、大変盛況であった。ポスター数も大幅に増え、合計で 54 件となったため、廊下で発表することになった施設の方には気の毒であったかもしれない。ポスターセッションの中身についてであるが、従来からの S 型課題・U 型課題、光源関連、将来計画関連の他に、「ユーザーグループ」からの発表が今回初めて含まれていたのが特筆したい。各ユーザーグループからは、全体で 23 件のポスター発表があった。その中でも、「蛋白構造解析グループ」からは 9 件の発表がなされ、「高圧グループ」からも 3 件の発表があり、その積極さが目を引いた。ポスターの数について言えば、もう少しあった方がいいのかもしれない。

今回の PF シンポ実行委員会の狙いが、「(1) ユーザーと施設との共通理解を図る、(2) 色々な分野のユーザーに PF シンポへの興味をもって貰い、(3) できるだけ多く参加してもらい、(4) その中から若手研究者の興味の芽を育みたい」ということにあったと聞いた。この試みは成功したと思う。次は、この試みを来年の PF シンポに如何に継続・発展させていくかにつける。1 年先が楽しみである。また、放射光学会・合同シンポジウムとの棲み分けをそろそろ考え直す時期に来ているのかもしれない。PF シンポの中で、PF を使った興味深いサイエンスをいろいろ聞いてみて、その中のすごい研究に、例えば「高良賞」を授与するなどという光景を浮かべてみるのは私だけだろうか。

## PF シンポジウムの感想

東京大学大学院理学系研究科 雨宮健太

先日行われた第 21 回 PF シンポジウムに参加したところ、後になって感想の執筆を依頼されてしまった。私は決して真面目な参加者ではなく、時おり講演会場を抜け出しては遠方からの共同研究者と実験結果について議論をしたり、PF まで行って実験装置の保守をしたりしていたので、断片的な感想しか書けないことをお許し願いたい。

さて、自分のことを正当化しようというのではないが、私のようにシンポジウムを抜け出す参加者はかなり多いように見受けられる。これは PF シンポジウムが、「放射光」というただ一点でつながる、とてつもなく多彩な分野にわたる講演と参加者から成り立っていることを考えれば当然といえよう。しかしこれは決して PF シンポジウムの問題点ではなく、むしろそのことこそが PF シンポジウムの醍醐味であり、他の学会（例えば放射光学会）との大きな違いであると言えるのかもしれない。というのは、時々抜け出すとはいえ逆に時々は全く分野の違った講演を聴く機会があり、講演者の方々もそれを意識して素人にもわかりやすい説明をして下さることが期待できるからである。いまさら言うまでもないことだが、自分の分野だけに閉じてもっているより、時には全く関係のない分野の話も聞いたほうが、新しい発見もあるし色々参考になることもある。

それにしても今回のシンポジウムは、とにかく構造生物分野の講演やポスターが多かった。この状況はまさに今の PF を象徴しているのであろう。私が聴いた数少ない講演のなかで、特に印象に残ったのは「創薬を指向した構造生物学」と題されたものである。マラリア原虫由来の酵素とヒト由来のその構造を比べて、そのほんの一部分がどちら側に折れ曲がっているかの違いで一方のみ「くぼみ」が存在し、それを利用して一方にだけ有効な阻害剤を設計したところ、完全ではないものの実際にマラリア原虫由来とヒト由来との間で効果の違いがあった、という内容だったと記憶している。たかだか 2 原子分子の吸着構造を調べるのに四苦八苦している我々の感覚からすれば、あれほど巨大な分子のほんの末端の構造まで決定でき、そこにできるくぼみの存在を発見できるというのは驚異的である。その道のプロから見ればまた違った感想になるのかと思うが、素人の私としては、放射光を用いた構造生物学の威力と、その内容のわかりやすさに、ひたすら感動するしかない。私も地味な基礎研究だからとあきらめずに、わかりやすく感動的な成果をあげるように努力しようと思う。

さて、ビームライン建設にも携わったことのある私としては、新企画「光源から利用研究まで」と銘打った講演も見逃せないものであった。といいながらこれまた全ては聴いていないのが申し訳ないが、その限りでの印象は「ビームラインから利用研究まで」に近いかもしれない。意図の説明を聞いていなかったせいもあるかと思うが、「こんな特徴的な光源を作って、こんな先進的なビームラインと

組み合わせたら、こんな面白い研究ができました」というのを期待していたので、特に「光源」の出番が少なかったのが少し残念である。もちろん講演内容は PF とユーザーの連携がうまく働いて非常に興味深いものであり、この企画は大変楽しめた。

ポスターセッションはこれまでになく盛況であった。これはユーザーグループからの(半ば強制的な推薦による?)発表が多数あったことが原因なのは間違いないであろう。先ほど述べたように口頭のセッションでは全く分野の違う講演も何となく聴くことができ、おかげで予期しない収穫もあるが、ポスターとなるとついつい近い分野の発表だけを詳しく見てしまう傾向にある。そうなってくると放射光学会等と何が違うのかという議論にもなりかねないが、面白い研究はいくらでもあるので、年に2回放射光学会のようなものがあるとしても、別に損はしない。

施設報告や運営に関していえば、ユーザーの最大の関心事のひとつであるシャットダウンの時期がほぼ確定されたことが大きい。予算獲得や実際の作業など、多くの方々の過去および未来のご努力の賜物であり、心から感謝したい。もうひとつの関心事である法人化に関しては、特に安全についてこれまで以上にユーザーの責任が問われることを除いては、基本的に共同研究のスタイル(旅費のサポート等)は変わらないと強調されたように記憶している。とはいえ、研究機関や大学がどう考えていようとも、それとは全く関係なく制度が変わっていく我が国であるから、多くのユーザーは疑心暗鬼であろう。5年後、10年後にどうなっているか、不安は尽きないし我々も自助努力を怠ってはいけなと思う。

これまた不真面目で申し訳ないが、懇親会には参加していない。酒気帯び運転の罰則が30万円および免許取り消し寸前の違反点数にまで強化された今となっては(いや、もちろん以前から運転する時には飲んでいないが)、4000円という会費は、「懇親」ができるというメリットを考えても多少厳しい。会費で思い出したが今回から PF 懇談会の会員はシンポジウムの参加費(500円)が無料となった。それならば会員になろうかとも少し思ったが(それでも無料になったのだろうか?)、近くに宣伝も説明も見当たらなかったで今回は見送った。話は戻って、懇親会の後には例によっていくつかのユーザーグループミーティングが行われたようである。私もそのなかの一つに参加したが、酒に酔ってのミーティングは本音の意見もつい飛び出し(実は酒を口実にした演技かもしれないが)、なかなか趣がある。次の日には誰も覚えていないことを祈りたい。

このような有意義な2日間を過ごせたのも、シンポジウムを企画運営された方々のおかげである。心から感謝の意を表すとともに、また来年を楽しみにしたい。

## 構造物性グループミーティング報告

放射光科学第二研究系 澤 博

九州大学箱崎地区で開催された日本物理学会年次大会に合わせて、恒例の PF 構造物性グループのミーティングを行った。約30名が集まり以下の内容で現状報告及び活発な議論があったので報告する。

日時 3月27日 18:30～

場所 九州郷土料理 わらび

### (1) PF BL-1B, 4C, 9C, 16A2 の各ステーションの報告 (PF スタッフ)

1A; 特に大きなトラブルはないが、今後は PF-AR への進出の可能性はある。

1B; 新しく圧力セルを導入した。約15kbarまでの圧力で低温構造解析が可能となった。

4C; 不注意による回折計の破損事故があった。shutdown中に修理した。

9C; 電動スリットが故障したが、本体の修理は完了。組み付けは最初に利用するユーザーに依頼している。

16A; モノクロ制御系の入れ替えを予定している。

### (2) 2005 年度の運転について (物構研 河田)

直線部増強の作業のため2005年3月頃から9月まで PF は shutdown する。現在の予定はあくまでもリング部分の改造だけで、インサージョンデバイス、BL更新、移設関連の予算の目処は立っていない。その予算は概算要求する予定。予算の獲得状況によっては構造物性関連のビームラインは影響を受ける。具体的には16Aのミニポールアンジュレータービームラインへの移設、1A,Bの移設を計画しているが、具体的な移設先などは獲得予算規模に依存する。予算獲得に関して協力願いたい。

### (3) BL-1B (物構研 澤)

MPD 回折計の老朽化が激しいために、現行では BL-1A と同じ quality のデータを測定できない。スタッフ優先タイムで、BL-1A と同じ試料を測定して検証してみたが、単結晶 MEM 解析などが出来なかった。今年度の予算で回折計のリプレイスが認められ約半額の配分が認められた。早い段階でユーザーからの要求を出してもらえれば、仕様書に反映できる可能性がある。また、予算がかなり苦しいので施設としてはユーザーからのサポートもお願いしたい。

### (4) SPring-8 だより (JASRI 壽榮松)

5月より運転。トップアップ運転がよいよ導入される。ナノテク関連で Soft X-ray が強化される予定。課金問題についての現状報告。特に草の根的なユーザーからの運動が重要。

### (5) 関西原研関連の報告 (原研 水木)

放射光利用に力を入れる方向になったので、共同研究を推進したい。

**(6) 東海原研 FONDER (東北大 野田)**

順調に共同利用を行っている。磁気構造の決定、水素結合系などの成果があがっている。引き続き共同利用・共同研究を募集中。

**(7) その他**

東海原研の中性子用四軸回折計 FONDER の設置は科研費による補助が獲得できたために実現した。その際にはユーザーからの声を「波紋」(中性子研究連絡会発行、現中性子科学会誌)に投稿するなど、ユーザーからのアプローチを積極的に行った。今後の直線部増強、SPring-8 の課金問題などについても同様な活動に効果が期待できる。

構造物性グループとしても、ユーザーから取り纏めの代表者に立ってもらい、ユーザーの声を伝えて行くこととする。

**PF 懇談会に永年会員を新設します**

PF 懇談会では、平成 15 年度の運営委員会にて細則の第 1 条を改正し、本年 4 月 1 日より永年会員(シルバー会員)を導入することに致しました。永年会員の会費は無料です。正会員から永年会員への変更は、定年後であればいつでも、事務局への自己申告により可能となります。永年会員の方には、PF シンポへの招待などの情報や会員名簿をお送り致します。当然ながら、今まで通り正会員のままで PF 懇談会を盛り上げていただければ、更にうれしい限りです。

なお、PF ニュースを希望される永年会員の方は、永年会員への変更申告時に、郵送などの手数料として 4,000 円を一括納入してください。この手続きにより、退会(あるいは廃刊)までの期間、PF ニュースを受領することができます。PF ニュースの送付については、昨年度より申込登録制度が導入されています。受領には毎年の登録が必要ですが、PF 懇談会会員の皆様には、自動的に送られます。

PF 懇談会では、過去に遡り、定年を期におやめになられた元会員の方々にも、永年会員として再入会されることをお勧めしております。これにより、PF 懇談会からの情報がより多くの皆様にお伝えできるものと思います。PF 懇談会への入会金は無料ですので、元会員の方々が永年会員に再登録される場合には、会費を一切払うことなく再入会することができます。お近くの元会員の方々をぜひお誘いください。

PF 懇談会では、新しい会員の PF 懇談会への加入を望んでおります。会員名簿を見ますと、PF 立ち上げに尽力された方が多くいらっしゃる反面、次世代を担う若手の会員の数が少ないように見受けられます。若い世代の PF 懇談会での活躍を特に期待しております。学生会員の会費は無料であることを申し添えます。

入会申込書は今号にも掲載されておりますが、PF 懇談会ホームページからもダウンロードが可能です。PF 懇談

会のホームページ <http://www.nims.go.jp/xray/pf/index.html> に入っただき、以下の 2 つのファイルをダウンロードして下さい。入会案内は <http://www.nims.go.jp/xray/pf/membership.htm> に、入会申込書(word ファイル)は <http://www.nims.go.jp/xray/pf/member.doc> に入っています。

入会申込書にご記入の上、e-mail、郵送、あるいはファックスでお送りいただきますと、運営委員会のメール審議をへて 1 週間程度で承認されることとなります。その後、一般会員の方は、年額 2,000 円の会費に対し、銀行の自動引き落とし(年 1 回)の書類を提出していただくこととなります。

PF 懇談会のホームページへは、PF のホームページ <http://pfwww.kek.jp/indexj.html> を開き、「PF 懇談会のページ」をクリックすることでも入れます。また、入会申込用紙は、事務局までご請求いただければ郵送致します。

以上、PF 懇談会を今後ともよろしくお願い致します。

**平成 15 年度第 1 回 PF 懇談会幹事会議事メモ**

日時：2004 年 3 月 23 日(火) 13:45 ~ 14:20

場所：PF 研究棟 2 階会議室

出席者：佐々木聡(東工大・会長)、高橋敏男(東大・行事)、桜井健次(物材機構・広報)、土屋公央(PF・会計)、雨宮健太(東大・編集)、宇佐美徳子(PF・庶務)、森史子(PF・事務局)

1. 会計幹事より平成 14 年度収支報告、平成 15 年度収支中間報告についての説明があった。
2. 近年会員数が減少していることについて、会員拡充のための方策について議論があった。対策のひとつとして、懇談会員は PF シンポジウムの参加費を無料とする案が提案され、運営委員会で提案することになった。

**平成 15 年度第 3 回 PF 懇談会運営委員会議事メモ**

日時：2004 年 3 月 23 日(火) 15:00 ~ 17:00

場所：PF 研究棟 2 階会議室

出席者：(所外委員) 佐々木聡(東工大・会長)、雨宮慶幸(東大)、柿崎明人(東大)、桜井健次(物材機構・広報幹事)、高橋敏男(東大・行事幹事)、野田幸男(東北大)、村上洋一(東北大)

(所内委員) 飯田厚夫、伊藤健二、大隅一政、河田洋、小林克己、小林正典、野村昌治、松下正(幹事) 土屋公央(PF・会計)、雨宮健太(東大・編集)、宇佐美徳子(PF・庶務)、森史子(PF・事務局)

1. 松下副所長より施設報告が行われた。PF の現状、共同利用の現状などの報告の他、法人化後の組織について、PF-AR の性能向上について、直線部増強計画のスケジュール、国際協力に関する説明等があった。

2. 庶務幹事より、次期 PF 懇談会運営委員の選挙の経過および結果について報告があった。
3. 会計幹事より、平成 14 年度収支報告、平成 15 年度収支中間報告が行われた。最近 PF シンポを年度末に開催しているために、報告書の印刷が終わるまで会計が閉められない問題が指摘され、今後、印刷が次年度にずれこんだ場合は印刷代は次年度の会計に含め、会計は 3 月末で閉めることとした。
4. 庶務幹事より、懇談会会員は PF シンポの参加費を無料にし、その分は懇談会より PF 実行委員会に補助を出すことについて提案があった。議論の結果、今年度の PF シンポから参加費の補助を実施することとした。
5. 庶務幹事より、平成 15 年度の活動報告があった。会員名簿の作成にあたって、自宅住所欄の扱いについて運営委員会のメール審議事項となったことが説明された。今回は「自宅住所欄は設けるが希望者は非公開にできる」こととし、その旨を会員に問い合わせのうえ、名簿を発行した。
6. 編集幹事より、PF ニュース編集委員会の平成 15 年度の活動報告、および平成 16 年度活動方針について説明があった。今後も予算の削減が予想されることが指摘され、対策について議論があった。
7. 次期 PF 懇談会会長として、雨宮慶幸委員を選出した。
8. PF 懇談会総会の議題について審議した。
9. PF シンポジウム内の「PF の運営について」セッションで取り上げる話題についての議論を行った。
10. PF で出た成果を広くアピールするために、優れた研究成果をピックアップするためのシステムを作ることを提案があった。今後 PF 内でルールを検討し、運営委員会に提案することとなった。

## 平成 15 年度 PF 懇談会総会議事録

日時：2004 年 3 月 25 日（木）13:10～13:40

場所：高エネルギー加速器研究機構  
3 号館セミナーホール

1. 総会議長に桜井浩会員（群馬大）を選出した。
2. 会計幹事より、平成 14 年度決算、平成 15 年度収支中間報告が行われた。平成 14 年度決算について承認された。
3. 佐々木会長より、次期会長に雨宮慶幸氏（東大）が選出されたことが報告された。雨宮次期会長より挨拶があった。
4. 庶務幹事より、次期 PF 懇談会運営委員選挙結果の報告、および平成 15 年度の活動報告があった。
5. 編集幹事より、平成 15 年度の PF ニュース発行状況、および 16 年度の編集方針について報告が行われた。
6. 佐々木会長より、永年会員（シルバー会員）の新設

の提案が紹介された（詳細については別記事参照）。運営委員会のメール審議事項とし、承認された場合は平成 16 年度から実施することが説明された。

（付記）永年会員（シルバー会員）の新設について、以下の細則改正が運営委員によりメール審議され、3 月 31 日に承認された。

＜細則第 1 条の改正＞ 下線部を追加する。

（第 1 条）本会に入会するには、所定の用紙に記入し、事務局に提出する。所定の用紙は事務局あるいはホームページより入手できる。会費は年間 2,000 円とする。新規会員については銀行引き落としを利用する。但し、学生会員および永年会員は無料とする。永年会員への変更は、定年後の自己申告による。PF ニュースを希望する永年会員は、申告時に手数料（4,000 円）を一括納入することで、退会まで受領できる。

## PF 懇談会次期運営委員選挙結果について

（任期：平成 16 年 4 月～平成 18 年 3 月）

PF 懇談会会則第 10 条および細則第 4 条に基づき、次期運営委員の選挙が行われた。PF 外運営委員候補者として、PF 外会員およびユーザーグループからの推薦に基づき、1 月下旬に 30 名が選出された。その後、PF 外会員による選挙を行い（平成 16 年 2 月 19 日㊄切、投票総数 173 通、うち有効投票数 170 通）、上位得票者 20 名が次期運営委員として選出された。選挙管理委員は会長指名により、小山篤（PF）、豊島章雄（PF）、宇佐美徳子（PF）各会員であった。PF 内運営委員は、PF 内会員中から選出された。次期運営委員の名簿を別掲する。

## PF 懇談会 H16 年、17 年度運営委員名簿

外部委員	朝倉 清高	北海道大学触媒化学研究センター
	雨宮 慶幸	東京大学大学院新領域創成科学研究科
	太田 俊明	東京大学大学院理学系研究科
	尾嶋 正治	東京大学大学院工学系研究科
	柿崎 明人	東京大学物性研究所
	片岡 幹雄	奈良先端科学技術大学院大学物質創成科学研究科
	河内 宣之	東京工業大学大学院理工学研究科
	桜井 健次	物質・材料研究機構 材料研究所
	佐々木 聡	東京工業大学応用セラミック研究所
	高倉かほる	国際基督教大学教養学部
	高橋 敏男	東京大学物性研究所
	中井 泉	東京理科大学理学部
	中川 敦史	大阪大学蛋白質研究所
	西川 恵子	千葉大学大学院自然科学研究科
	野田 幸男	東北大学多元物質科学研究所
	三木 邦夫	京都大学大学院理学研究科
	宮原 恒昱	東京都立大学大学院理学研究科
	村上 洋一	東北大学大学院理学研究科
	若林 克三	大阪大学大学院基礎工学研究科
	渡辺 信久	北海道大学大学院理学研究科
内部委員	飯田 厚夫	物質構造科学研究所・放射光科学第一研究系
	伊藤 健二	物質構造科学研究所・放射光科学第一研究系
	伊澤 正陽	物質構造科学研究所・放射光源研究系
	春日 俊夫	物質構造科学研究所・放射光源研究系
	河田 洋	物質構造科学研究所・放射光科学第二研究系
	小林 克己	物質構造科学研究所・放射光科学第一研究系
	野村 昌治	物質構造科学研究所・放射光科学第一研究系
	前澤 秀樹	物質構造科学研究所・放射光源研究系
	松下 正	物質構造科学研究所
	山本 樹	物質構造科学研究所・放射光科学第一研究系

## 幹事会メンバー

	氏名	所属
会長	雨宮 慶幸	東京大学大学院新領域創成科学研究科
利用幹事	佐々木 聡	東京工業大学応用セラミック研究所
	高橋 敏男	東京大学物性研究所
	宇佐美徳子	物質構造科学研究所・放射光科学第一研究系
	斎藤 智彦	東京理科大学理学部
行事幹事	佐藤 衛	横浜市立大学大学院総合理学研究科
	間瀬 一彦	物質構造科学研究所・放射光科学第一研究系
広報幹事	桜井 健次	物質・材料研究機構 材料研究所
庶務幹事	田中 雅彦	物質構造科学研究所・放射光科学第二研究系
会計幹事	土屋 公央	物質構造科学研究所・放射光源研究系
編集幹事	一國 伸之	千葉大学工学部